

# 2018～2027年度の連系線の運用容量 (年間計画・長期計画)の一部変更について

2018年11月28日

# 2018年度の運用容量変更点

変更前

[万kW]

平日昼間帯（4月～3月）	
北陸フェンス（北陸受電方向）	130
中部北陸間連系設備（北陸向）	30
北陸関西間連系線（北陸向）	130

平日昼間帯以外（4月～3月）	
北陸フェンス（北陸受電方向）	60
中部北陸間連系設備（北陸向）	30
北陸関西間連系線（北陸向）	60

5月の最過酷ケースで通年分の運用容量を算出



変更後

[万kW]

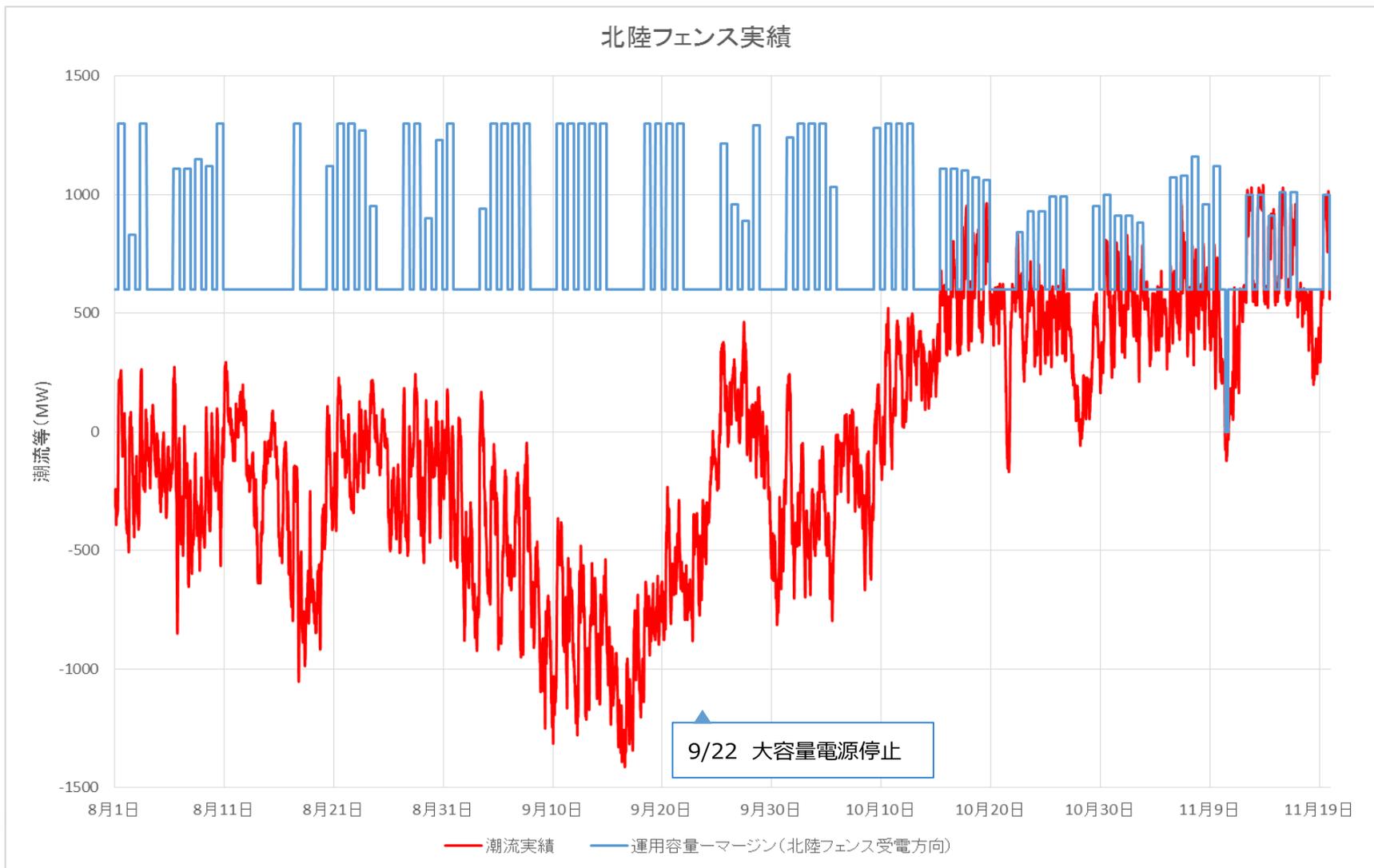
平日昼間帯（12月～3月）	
北陸フェンス（北陸受電方向）	160
中部北陸間連系設備（北陸向）	30
北陸関西間連系線（北陸向）	160

平日昼間帯以外（12月～3月）	
北陸フェンス（北陸受電方向）	90
中部北陸間連系設備（北陸向）	30
北陸関西間連系線（北陸向）	90

平日昼間帯については3月の最過酷ケース、平日昼間帯以外については年末年始の最過酷ケースで12月～3月の運用容量を算出

9/22以降、スポット市場における市場分断は発生していないものの、時間前市場後に空容量が「0」となる時間帯が多くみられる。(10/1~11/20の間において約17%のコマで空容量が0となっている。)

### 北陸フェンス実績



2017年度第4回運用容量検討会 資料1 - 3より引用

## <考え方>

- 北陸関西間連系線がルート断（2回線故障）した場合において、それぞれの系統が大幅に周波数上昇（または低下）することなく、周波数面からの系統安定維持が可能となる潮流の値とする。

## <検討条件>

### ● 算術式

北陸系統

系統容量×系統特性定数（－発電機解列量）<sup>1)</sup>

1) ( ) は周波数低下側のみ

### ● 電源制限・負荷制限の織り込み

- 北陸系統 電源制限、負荷制限：あり

北陸系統において、連系線2回線故障により系統分離が発生し、規定の周波数限度を上回る（または下回る）と想定される場合には、**周波数を規定の範囲内に収めるために、電源制限（または負荷制限）を行う。**